

令和7年度「看護の日」優良看護職員等受賞者一覧

1 看護功労

(種別、職種毎に五十音順・敬称略)

職 種	氏 名	主 な 経 歴 等	主 な 功 績
保健師	佐藤 純子 きとう じゅんこ	みやぎ心のケアセンター気仙沼地域センター 地域支援課長 宮城県 技術副参事兼技術次長	昭和 57 年に宮城県入庁以来、保健師として、地域保健、母子保健、高齢者及び障害者の保健等、地域保健活動に尽力し、県民の福祉や公衆衛生の向上に寄与。保健所、保健福祉事務所等において、家庭訪問や相談活動などを通じて当事者や家族に寄り添った支援、地域保健活動に尽力した。特に、東日本大震災以降は、気仙沼保健福祉事務所技術副参事兼技術次長として、管内の市町、関係機関と連携し、被災者の心のケア対策や地域の精神保健福祉の向上に尽力した。 宮城県退職後は、みやぎ心のケアセンターに入職し、被災者支援や心のケアを行うとともに、令和 7 年 12 月に予定される気仙沼地域センターの閉所に向けて、事業の終結や移行などの準備を行い、地域の精神保健福祉の向上のため尽力している。
保健師	松田 祐子 まつだ ゆうこ	みやぎ心のケアセンター 地域支援部長 宮城県 技術副参事兼技術次長	昭和 59 年に宮城県入庁以来、保健師として、精神保健、母子保健、感染症対策のほか、保健師養成、震災後の心のケアなど地域保健医療活動に尽力し、地域住民の健康維持・増進など県民の福祉や公衆衛生の向上に寄与。県本庁においては、保健師の立場から政策の決定・立案、運用等に携わり、県民の保健福祉向上に貢献している。特に、東日本大震災後は、障害福祉課に勤務し、政府要望等により予算の確保に努め、被災者の心のケア対応の充実に尽力した。 また、宮城県総合衛生学院公衆衛生看護学科専任教員、宮城県高等看護学校校長として、保健師や看護師の教育等にも貢献した。 宮城県退職後は、みやぎ心のケアセンターに入職し、地域支援部長として被災者の心のケアの充実に努めている。

助産師	武者 文子 むしや ふみこ	母乳育児相談室まんまはうす 院長	昭和 63 年より助産師として臨床や行政での職務経験を積み、平成 10 年より母乳育児相談室としての助産院を開業。卓越した知識と技術から、産後の母親からの信頼も厚く、母乳育児に関する相談等により、地域母子保健に貢献している。また、自ら「うぶごえ座」を立ち上げ、小中学生に命の授業を長年実践。開業しながらも、新生児家庭訪問や産婦人科勤務にて、助産師としての経験を絶え間なく積んでおり、看護及び助産学校非常勤講師も務める。 令和 2 年には一般社団法人宮城県助産師会の副会長に就任。産後ケア事業にも従事し、産後の母子やその家族に温かく寄り添い、地域に定着した助産師の模範として大変活躍している。
看護師	池田 良子 いけだ りょうこ	気仙沼市本吉地域包括支援センター 管理者	長年にわたり看護師及び社会福祉士並びに主任介護支援専門員の資格を活かし在宅福祉の向上に努めた。また、地域からの信望も厚く、平成 24 年 10 月から現気仙沼市立本吉地域包括支援センター管理者として関係機関と連携を密にし、高齢者福祉の向上に努めた。 さらに、後進の指導にも熱心に当たるとともに、認知症の方や介護する方々の情報交換の場でもある認知症カフェを開催するなど、積極的に業務に当たっている。 現在も気仙沼市本吉地域包括支援センターにおいて、社会福祉士として業務に従事している。
看護師	浦山 美輪 うらやま みわ	国立大学法人東北大学 東北大学病院 看護部長	昭和 61 年に東北大学医学部附属病院（現東北大学病院）に看護師として採用され、副看護部長、看護部長、副看護部長、副病院長兼看護部長を歴任。平成 21 年から平成 26 年まで、文部科学省 GP 事業において、実践力と教育力を持つ看護師育成プログラムの企画、体制構築を担い、臨床看護師の資質向上に貢献した。 地域医療連携センターでは、在宅療養支援ガイドラインの整備、各部署への教育活動等を行い、自院の退院支援推進に貢献した。また、入退院支援センター設立の企画と立ち上げ準備を行い、平成 29 年 4 月の開設に尽力した。 新型コロナウイルス感染症拡大時においては、副看護部長として院外への看護師派遣に加え、宮城県、自院の災害マネジメントセンター等と協力して、ドライブスルー検査体制の構築、抗体カクテルセンターの立ち上げ調整等、地域の感染制御活動に貢献した。 令和 5 年に副病院長・看護部長に就任してからは、都道府県がん診療拠点病院の看護部門長として、他の拠点病院の看護部長やがん認定・専門看護師とともに、県内のがん看護の課題抽出に貢献した。

看護師	おやま よし子 小山 よし子	気仙沼市立病院 看護部長	昭和 57 年に公立気仙沼総合病院（現気仙沼市立病院）に看護師として入職し、現在まで医療の現場、看護管理者、看護協会支部理事として看護業務に従事。 看護管理者としては、経験のないコロナ禍の看護体制の構築や、地域唯一の分娩施設として助産師の確保、地域周産期医療の体制構築に尽力した。 看護協会支部理事としては、地域住民の疾病予防や健康づくりに努め、「みんな一緒にはまらいんや」を合言葉に地域の看護職の交流の輪をひろげ、看護職のネットワーク強化を図り、自院のみならず地域の人材育成や看護の質向上に大きく貢献した。 現在も引き続き気仙沼市立病院の総合患者支援センターにおいて、地域医療連携業務に従事し、多職種と協働し地域包括ケアの推進に尽力している。
看護師	さくま よしひろ 佐久間 義博	医療法人社団北社会船岡今野病院 看護部長	医療法人社団北社会船岡今野病院の看護部長を 10 年以上担い、院内では感染管理部門において新型コロナウイルス感染症対策に力を発揮。令和 3 年 1 月から令和 7 年現在に至るまで多職種との協働を推進し、発熱外来を積極的に実施するとともに、入院対応の体制構築に尽力した。また、患者対応や職員の対応といった院内の感染症対応マニュアル等の改善を行うなど、病院全体の院内感染管理の質向上に貢献した。
看護師	さとう かつ子 佐藤 勝子	医療法人くさの実会光ヶ丘保養園 看護副参事	昭和 59 年 4 月より医療法人くさの実会光ヶ丘保養園に勤務。現在まで 41 年という長きにわたり地域医療の現場で看護職務に従事する他、看護師の模範として人材育成や看護の資質向上に大きく貢献。看護管理者としての役職を 10 年以上にわたり担い、院内では委員会活動、看護手順委員会に所属し、多職種との協働を推進し病院全体の質向上を目指した取り組みを実践した。 現在は、看護副参事として、車椅子認知症病棟にて勤務にあたる。
看護師	さとう のり子 佐藤 功子	宮城県看護協会若林訪問看護ステーション 所長	平成 5 年の若林訪問看護ステーション入職当時より、知的障害者や精神障害者に対する訪問看護に従事。家族を含めた相談対応を行い、在宅療養者の生活の質の向上、豊かな生活の実現に寄与してきた。平成 16 年からは、介護保険におけるケアマネジャーとしても、看護の視点から質の高いケアマネジメントを行い、在宅療養者のより一層の QOL の向上を図った。平成 26 年からは、当時宮城県の在宅見取りを一手に担っていた医師と協働し、若林区を中心に精力的に在宅看取りを実践した。 平成 27 年に同ステーション所長に就任し、管理者として後進の育成や多職種連携地域ネットワーク構築の先頭に立ち、地域包括ケアの実現に尽力した。

看護師	しながわ ようこ 品川 陽子	社会医療法人杏仁会河原町病院 理事兼看護部顧問	昭和 43 年から看護職務に従事。平成 20 年から社会医療法人杏仁会河原町病院にて、看護部長として職員の働きやすい環境づくりと看護の質向上のため工夫と対策を行った。 令和元年 12 月からの新型コロナウイルス感染症対策として、外来患者および職員の対応に従事。令和 2 年 8 月から発熱外来を設置し、PCR 検査の受け入れ体制を構築した。更に令和 3 年 4 月からコロナワクチン接種会場の提供に向けた調整を行う等、コロナワクチン接種体制構築と円滑な運営に従事した。以降も夜間休日救急対応等において地域医療に貢献している。 令和 6 年 4 月より河原町病院理事兼看護部顧問として在職中。感謝と思いやりを忘れない姿勢を保ち、職員が安心して働き続けられる支援を続けている。
看護師	たかはし まなみ 高橋 真美	登米市立登米市民病院 看護部長兼医療局経営管理部技術参事	昭和 62 年から公立佐沼総合病院（現登米市立登米市民病院）、登米市立米谷病院等に勤務。二次救急医療機関として求められる技能の習得に向けたスタッフ教育等を行い、「断らない救急」を実践。 平成 31 年には看護部長兼経営管理部技術参事に就任。認定看護管理者の資格を修得し、看護管理者の資質と看護の水準の維持・向上に取り組んだ。 また、登米市病院事業の看護部統括責任者として多職種協働による連携強化を図り、初期診療行為を行う診療看護師の育成と活動の場の開拓に取り組むなど、入院から在宅まで「繋がる看護」の実践を推進した。 令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症流行時には、県内市町村初の発熱外来の設置に向けた関係機関との調整、感染患者の受け入れ等に尽力し、県内の感染制御に貢献した。
看護師	もり りゅうこ 森 竜子	医療法人浄仁会大泉記念病院 看護部参事	平成 3 年から医療法人浄仁会大泉記念病院に 34 年間勤務。新型コロナウイルス感染症流行時には、感染防止策の徹底、スタッフ支援など、多岐にわたる対応を行い、患者の安全確保と医療提供の継続に尽力した。 また、看護管理者として、職場環境の改善や業務の効率化、教育体制の充実を図り、後進の指導・育成と組織全体の成長に貢献した。さらに、多職種連携の推進や地域包括ケアの充実にも寄与し、患者にとってより良い医療・看護の提供を実現した。 現在も、院内の多岐にわたる場面で、職員の指導・教育及び患者や家族への対応などを行い、外来・病棟を問わず活躍。また、宮城県看護協会役員として、自院に限らず宮城県内の病院、施設に研修企画等を行っている。

2 看護教育功労

該当者なし